

氏名	岩田 千亜紀		
学位の種類	博士（社会福祉学）		
学位記番号	甲第 62 号		
学位記授与の日付	2016 年 3 月 18 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
学位論文題目	高機能自閉症スペクトラム障害（ASD）圏の母親への子育て支援に関する効果的プログラムモデル開発 —母親のストレングス（特性）を踏まえた協働による支援—  Development of an Effective Program Model for Mothers with High-Functioning Autism Spectrum Disorders (HF-ASD) in Raising Children -Collaborative Support Based on Strength of Mothers-		
論文審査委員	審査委員長	後藤 隆	
	審査委員	大嶋 巖	(主指導教員)
	審査委員	藤岡 孝志	(副指導教員)
	審査委員	佐藤 久夫	
	審査委員	小田 美季	

## 論文要旨（和文抄録）

本研究の目的は、高機能自閉症スペクトラム障害（ASD）と診断された母親およびその疑いのある母親の育児困難の軽減のために、母親の多様なニーズに合致した効果的な子育て支援プログラムのモデルを形成することである。

研究方法としては、プログラム評価方法を援用して、プログラム評価手法の第一ステージである「開発評価」を実施し、インパクト理論およびプロセス理論による、新規の効果的な子育て支援プログラムのモデル構築を目指した。また、ニーズ評価においては、グラウンデッド・セオリー・アプローチを採用した。

本研究では、まず体系的な文献レビューを行い、それを基に高機能 ASD 圏の母親を対象とした暫定版の子育て支援プログラムのモデルを理論的に提示した。続いて、当事者による手記分析と当事者へのインタビュー調査、さらに「妊娠・出産包括支援モデル事業」を実施した市町村の保健師らを対象とした質問紙調査によるニーズ評価を実施した。そして、それらの分析結果や追加調査、評価可能性アセスメントの結果を踏まえて、高機能 ASD 圏の母親に対する子育て支援プログラムの最終化を行った。最終化された子育て支援プログラムのインパクト理論では、当事者との協働によって、高機能 ASD 圏の母親の特性（ストレングス）への気づきを促進し、それによって母親のハーディネスの構築とソーシャルサポートの活用に繋げ、母親の育児困難の軽減、ウェルビーイングの向上を目指した理論的モデルへと改善を行った。

本研究における高機能 ASD 圏の母親への子育て支援モデルは、開発段階の理論モデルであり、本研究には多くの研究課題が残されている。しかし、本研究では、高機能 ASD

圏の母親の子育て困難や支援ニーズ、支援の実態を新たに示すなど、今後の実践や研究の発展にも寄与しうる重要な知見を創出できたと考えられる。

## **Abstract**

### **Development of an Effective Program Model for Mothers with High-Functioning Autism Spectrum Disorders (HF-ASD) in Raising Children -Collaborative Support Based on the Strength of Mothers -**

Chiaki Iwata

#### **Background**

Mothers who have, or who are suspected of having, high-functioning autism spectrum disorder (HF-ASD) have various difficulties with pregnancy, giving birth and raising children. Some HF-ASD mothers were not able to care for their children as they intended and developed serious depression as a result. However, there is little literature about mothers with HF-ASD raising children. Thus, research to develop an effective program model for these mothers is clearly necessary.

#### **Purpose**

Based on the needs evaluation of the HF-ASD mothers, this study aimed to develop an effective program model for the HF-ASD mothers in raising children that meets their various needs and to reduce the difficulties faced by HF-ASD mothers in raising children.

#### **Method**

In the development of the program model, program evaluation theory was utilized. The effective program model that was developed consisted of impact theory and process theory. Grounded Theory Approach (GTA) was also adopted as a needs evaluation.

#### **Results**

The study consisted of literature review, an empirical study and model developments.

Prior to the empirical study, a literature review of former studies was conducted. The literature review suggested that utilization of social support for mothers and the encouragement of greater hardiness in mothers contributed to a reduction of the stress of mothers and in adequate nurturing. Based on the results of the literature review, a tentative and theoretical program model for mothers with HF-ASD was developed. The

target population of the tentative impact model was all mothers who have, or who are suspected of having, HF-ASD having difficulties in raising children. The model aimed to help meet their needs and their specific traits by providing seamless support from their pregnancy.

Secondly, two kinds of qualitative empirical studies—namely, an analysis of accounts from mothers with HF-ASD and individual interviews with them—were conducted in order to clarify the special needs and difficulties of these mothers in raising children. Further, the questionnaire survey was conducted to obtain more information about the practitioners in their communities. The program model for the HF-ASD mothers who are raising children was finalized based on the analysis of the above studies, additional studies and evaluability assessments.

In the finalized program model, the target population of the model was HF-ASD mothers who were pregnant and/or had infants and small children, regardless of whether the mother had been diagnosed with ASD and was self-aware of the difficulties in raising children.

In the finalized impact model, collaborative support led HF-ASD mothers to counseling, where they became more aware of their own strengths. This is intended to reduce the difficulties faced by the mothers, as well as to increase their appropriate childcare actions and improve the well-being of the mothers and their families. In addition to this, the supportive system was modified to cooperate with local related departments in the communities.

## **Discussion**

This study developed a program model for HF-ASD mothers in raising children. The model remains a tentative and theoretical model. Various research tasks also remain. However, this study clarifies the special needs and difficulties in raising children among HF-ASD mothers and also newly identifies actual supportive conditions for the mothers. Thus, this study creates new observations that contribute to further practices and studies for the mothers with HF-ASD.

Continuous revisions of the model for HF-ASD mothers through the practice of the model and practical EBP model of the HF-ASD mothers are needed in the future.

## 【審査結果の要旨】

### 1 審査委員の構成と審査の経過

博士論文審査は、日本社会事業大学大学院学則、同学位規定及び同博士後期課程修了細則に基づき、第3次予備審査及び最終審査から成り立っている。審査委員は、社会福祉学研究科委員会にて選任された大学院担当の専任教員5名が担当した。5名の氏名と専門分野は以下のとおりである。

審査委員長	後藤 隆	社会調査法、社会調査史
審査委員	大嶋 巖	精神保健福祉 福祉プログラム評価
審査委員	藤岡 孝志	子ども家庭福祉 臨床心理学
審査委員	佐藤 久夫	障害者福祉
審査委員	小田 美季	障害者福祉

2015年10月30日までに提出された第3次予備審査博士論文について審査委員がそれぞれ精読し、11月28日の公開口述試験を受けて、各審査委員の指摘事項を審査委員長がとりまとめ1月22日までの修正を認め、審査委員会は指摘事項に対応した論文の提出を受けて審査を行い、5名の審査委員全員が第3次予備審査の評価を合格とし、審査委員会においての合格が了承された。次いで、2月5日までに最終審査及び最終試験の申請がなされ、審査委員会は、提出された本論文は博士（社会福祉学）の学位を授与するにふさわしいとの結論に達し、審査委員5名連名による「博士論文最終審査及び最終試験結果報告書」が作成され、2016年2月18日の社会福祉学研究科委員会に審査結果を提案し了承を得た。本学学長は、これらの手続きを経て、2016年3月18日に「博士(社会福祉学)」の学位を与えることとした。

### 2 博士論文の評価

岩田論文は、プログラム評価手法を用いた、高機能自閉症スペクトラム障害(ASD)の母親を対象とした子育て支援プログラムのモデル構築を目的としたものである。今後のEBP研究への展開のベースとなるモデル構築であり、その障害特性から子育てに特有の困難を有するが社会的支援は十分ではない高機能自閉症スペクトラム障害(ASD)圏の母親の子育て支援について、内外の先行研究をふまえたうえで、プログラム評価の枠組みに即し、主として、当該母親の手記分析、インタビュー分析の2つの質的分析によるニーズ評価、支援者である保健師への質問紙調査結果の量的分析、さらに子ども家庭支援センターへの追加調査、当事者、支援者との意見交換、を積み重ねたものとなっている。グレーゾーンまで含めた高機能ASD圏の母親を対象に、母親の困り感を契機とした、母親自身の腑活、障害特性に見合うアセスメント、必要な社会的資源動員を可能とするネットワークをもつ支援の発動につき、暫定的な支援プログラムモデルを提示している点にオリジナリティがあり、また、子育てに困難を持つ当該母親への社会的支援が十分とはいえない我が国現況に照らし、社会的意義も大きい。

本研究分野における調査対象選定の制約下ではあるが、今後の実践プログラムやEBP研究に有用

な一定の知見を得ており、我が国においても、発達障害児・者へのアセスメント、支援体制の整備が進められようとしている渦中、発達障害当事者かつ母親を対象とする本研究は有意義である。以上から、博士論文として十分な水準に達していると評価した。

### 3 最終試験の結果

プログラム評価の枠組みに即した論文構成、内外の関連先行研究サーベイ、質的分析、量的分析の積み上げからみて、本研究分野における調査対象選定等の制約はぬぐえないものの、今後の実践プログラムやEBP研究に有用な一定の知見を得ており、科学的な研究能力を示しているものと判断する。審査委員の指摘については、加筆修整により対応がなされている。支援対象像を必ずしも医学的な診断が明確でないグレーゾーンに括弧していること、母親への腑活、障害特性に見合うアセスメント、必要な社会的資源動員を可能とする協働支援の発動につき、暫定的な支援プログラムモデルを提示していることから、社会福祉実践に係る実践的研究能力を示しており、本論文は、社会福祉学における障害者福祉、援助分野における重要な貢献であり、十分な当該学識を示している。研究のオリジナリティ、社会的意義共に、博士論文の水準に達しており、社会福祉学に関する豊かな学識と実践的研究能力を有していることから博士(社会福祉学)をうけるにふさわしいと判断する。